



RubyWorld Conference 2021 開催報告

2021年12月16日(木)、「松江オープンソースラボ (松江市開発交流プラザ)」(島根県松江市)にて、13回目となる「RubyWorld Conference 2021」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会 (構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

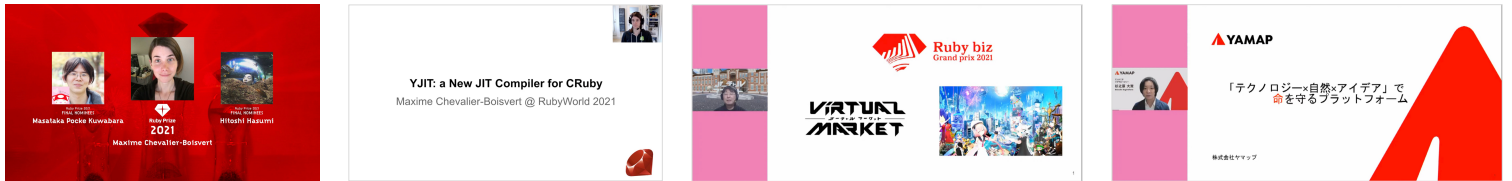


13回目を迎えた今回の国際会議は、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会期を1日のみに短縮しオンライン開催とし、無観客にてYouTubeでライブ配信しました。Rubyに関するビジネス利用事例や最新技術、教育・研究での取り組みなどを紹介する様々なセッションを通じて、より多くの技術領域でのRuby利用、研究に普及していくことを目指し、国内外11名が講演し、ライブ配信時視聴者数は273名(日本語チャンネル: 253名・英語チャンネル: 20名)、視聴回数(視聴者数)は2,314回/名(日本語チャンネル: 2,003回/名・英語チャンネル: 311回/名 ※2021年12月17日21:00時点)を数えました。

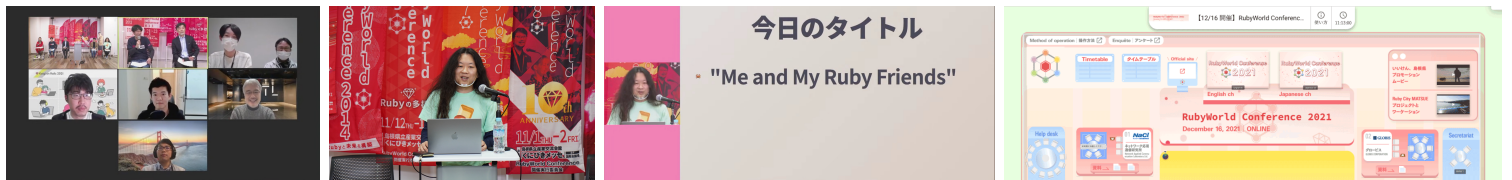
オープニング・セレモニーで、まつもとゆきひろ 実行委員会委員長、丸山達也 島根県知事、上定昭仁 松江市長の挨拶に続き、基調講演-1では、Rubyの開発者まつもと委員長が「Vision, Value, Victory」と題し講演。



引き続き、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰するRubyコミュニティの個人賞「Ruby Prize 2021」、ビジネスの領域においてRubyの特徴を活かして、新たなサービスを創造し世界へ発信している企業、団体及び個人を対象とした今年で7回目の開催となるRuby biz Grand prix 2021においてグランプリを受賞された株式会社HIKKY様、株式会社ヤマップ様のスピーチが行われ、その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者、教育機関関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。



基調講演-2では、「Me and My Ruby Friends」と題しAsakusa.rbの松田明氏にご講演いただき、また、オンライン開催ならではの試みとして質問対象5セッションの講演者を会場と遠隔で繋いだQuestion & Answer Sessionの実施や、参加者同士が交流できるオンライン会場(来場者数: 147名)を設置しました。



なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が議論を振り返るとともに、一刻も早い新型コロナウイルスの終息とRubyの更なるビジネス利用の広がり、そして島根県松江市で従来の集客型での開催を願い来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

